

---

# **小春日和な短編集**

小春十三

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

小春日和な短編集

### 【NZコード】

NZ8909Y

### 【作者名】

小春十三

### 【あらすじ】

思い付いたら書きます。

# 1 おがくず

K氏が大学の研究室を訪ねるのは、卒業してから五年目の冬だった。

今もラボに残る同ゼミのH氏は、久しぶりに訪れた同窓生を笑顔で迎え入れた。

「久しぶりだね。近くまで来てたんで顔を見に来たんだ。相変わらずで何よりだ。ところで、ちょっと頼まれてくれないか？ 実は先日実家に帰った時に怪しい露天商でこんなものを買ったんだ」

K氏が懐から五センチ四方の石の箱を取り出し、H氏に見せる。

「なんでも、呪術の道具らしいんだ。嫌いな相手の家にこれを撒き散らせば、それだけで効果があるとかないとか……」

H氏はその石の箱を受け取り、フタを取る。すると今度は発泡スチロールの箱が出てきて、それをあけると木箱があり、さらに開けたところで褐色の瓶が入っていた。

カツーン……。

「まるでマトリョーシカだね？」で、僕にこれを調べろっていうのかい？」

褐色の瓶を傾けると、まるで砂時計のようにさわらうと傾く内容物。どうやら粉末状のものらしい。

H氏は褐色の瓶を空け、手に取つてみる……。

「おい、大丈夫かい？」

その様子にK氏は驚いた様子で後ずさりするが、H氏は笑つて相手にしない。

「ははは、露天商で売つてたんだろ？ 劇薬なわけないじゃないか……。それに、これはただのオガクズだよ」

カツーン……。

カツーン……。

「おがくず？ オガクズって木を切つたりするときのアレかい？」

「ああ。調べる必要もないよ。君は騙されたんだ」

「はは、なんだそうか……」

K氏はそう言うと、H氏から瓶を受け取り、フタを閉め、木の箱に詰め、発泡スチロールの箱に戻し、石の箱にしました。

カツーン……。

「さてと、まさかと思つて買つてしまつたけどほつとしたよ。なんかばかばかしいことに突き合わせたみたいで悪かつたね。そういうばそれはなんだい？」

研究室の隅にある見慣れぬ道具を指差すK氏に、H氏は笑つて答える。

「ああ、これはうちのワифが持つてつるさくてね。巷で流行っているなんとかカウンターだつてセ……」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8909y/>

---

小春日和な短編集

2011年11月26日21時05分発行